



すぎ 杉っ子

令和6年12月5日 発行
学校だより 第8号
射水市立小杉小学校
Tel 0766-55-1055
E-mail kosugi-e@imizu.ed.jp

子供のほめ方

校長 杉 高 浩

今月は「子供のほめ方」について書きたいと思います。「子供は、ほめて育てると良い」ということは、すでに通説となっているように思います。保護者の皆様は、お子さんがテストで百点をとって帰ってきたとき、あるいは百メートル走で1等だったとき、お子さんにどのような言葉をかけますか。たいていは、「百点だったの。よくがんばったね。」「1等だったね。すごいね。」というほめ方をすると思います。これは一見、適切なほめ方のように思えますが、その裏には、「百点だったから」「1等だったから」ほめるという結果主義が見えます。そうやってほめられてきた子供は、「百点でなければ、1等でなければうれしくない」というこだわりが強くなり、そこに至る過程を楽しめなくなる可能性があります。一人一人の子供が、同じように努力をしても、全員が同じような結果になるとは限りません。その結果が満足のいくものであってもなくても、そこに至るまでの過程を十分に認め、ほめてあげることが大切です。特に結果が良かったときなどは、ついその結果ばかりをほめてしまいがちになりますが、そういうときこそ、そこに至るまでの過程を認めることを大事にしていきたいです。

子供のほめ方には2種類あります。一つは前述したような、子供がやり遂げた、努力したことを認めるほめ方です。もう一つは、子供の存在そのものをほめることです。これは、特に何かをしなくてもほめられる、文字通り存在するだけでほめられるというものです。どちらもとても大切ですが、ご家庭で特に大切にしていきたいのは、後者です。なぜなら、「あなたがいてくれるだけで嬉しい」ということを伝えられるのは、一番身近な家族のほかにはありません。けれども、「存在そのものを認める」ことは、頭の中では思っている、日常では、あまり子供に伝えていないのではないのでしょうか。子供は誰かに「存在そのものを認められている」と思えるだけで、長所も短所も併せもった自分を「価値ある人間だ」と感じる自己肯定感を育てることができます。自己肯定感を育んだ子供は、他者の違いを理解し、認め、他者を思いやることもできます。



先日、お寺の住職のお話を聞く機会がありました。息子夫婦と1歳になる孫と一緒に過ごしたので、住職はその場に合わせ、お子さんとのことを話題にされました。住職は小学生と保育園児の3人のお子さんの歯磨きの仕上げ磨きをされているそうです。その際、必ず交わす言葉があり、住職が「どうしてそんなに可愛いの？」と子供たちに尋ねると、子供たちは「それは私はみんなの宝物だから」と答えるのだそうです。私はこの話を聞き、これからは今まで以上に成功や優劣に関係なく、「みんながいてくれるだけで嬉しい」というメッセージを、杉っ子たちに、大切に伝えていき、杉っ子の自己肯定感をもっと高めていこうと思いました。



学校保健委員会を行いました



<保健委員会の発表>



<学校薬剤師伏喜先生の講話>

11月22日（金）の学習参観後に全校で学校保健委員会を開催いたしました。4～6年生と百名余りの保護者は体育館で、1～3年生は各教室でテレビ中継を通して参加しました。

はじめに、保健委員会の児童が、杉っ子の睡眠時間についての実態から、睡眠時間を守って健康な生活を送ることの啓発を行いました。発表後、学校薬剤師の伏喜先生から生活習慣の早寝、早起きの大切さについて体と脳の健康という観点から分かりやすくお話していただき、児童は自分の日々の生活を振り返りながら、真剣に話を聞いていました。

学校保健委員会を機に「あははかめ」の生活（あさごはん、はやねはやおき、からだをうごかす、メディアの時間をまもる）について改めて振り返り、実践するため、11月22日～28日の期間、がんばり週間に取り組みました。

多くの保護者の方々にご参加いただき、ありがとうございました。

幼児教育・小学校教育の接続を目指して

2年生が11月に入り、生活科の学習「2年生おもちゃランドをひらこう」の学習がスタートしました。1～3組の全ての教室が身の回りにあるものを使って簡単に遊べるおもちゃづくりに取り組み、11月22日（金）の学習参観では、お家の方を招待し、25日（月）には、1年生を招待しておもちゃランドを体験してもらいました。招待された1年生は、たくさんのコーナーがあることや、すごく上手におもちゃがつくってあることに感激していました。

さらに新たな改善も加え、28日（木）には小杉東部保育園の年長児を招待しておもちゃランドを開催しました。

1階マルチで開会式を行った後、1組から順番に3つの教室のおもちゃランドを約1時間かけて回り、それぞれのコーナーで2年生の児童から遊び方の説明を受けながら、おもちゃランドを楽しみました。

文科省の有識者検討会が10月にまとめた最終報告書（右下のQRコードから全文を見ることができます）に「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」について「幼児教育施設と小学校が連携の意識をもつとともに、教育実践を見合って相互の共通理解を図ること、特に小学校入学当初は幼児教育との指導方法の連続性・一貫性を確保することが重要」とまとめられています。まずは幼児教育施設の先生方に本校での教育活動や子供の成長ぶりをしっかり理解していただくことが大切であり、本校の児童にとっても、自分たちの意欲的な学習に取り組む姿を先生方やたくさんの園児に見てもらうことで自己肯定感が高まりました。

今後、2月に1年生と西部こども園、3月に5年生とあおい幼稚園・大江保育園の年長児との交流を行い良好な接続に取り組んでいきたいと思っております。



<11月28日：東部保育園との交流>

